

海軍公報(部内限)第四千二百五十五號

昭和十七年十二月一日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一四七九三號  
本年十一月三十日現在潜水母艦大鯨ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ航空母艦龍鳳ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十七年十一月三十日

海軍大臣

○通 牒

經物第二〇四號

昭和十七年十一月二十八日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

官給品ノ記帳整理省略ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十六年經物第一三〇號首題通牒申左記ノ通改正致

海軍公報(部内限)第四千二百五十五號

昭和十七年十二月一日

一三五九

候

記

甲乙二會社ニ亘リ一ノ物品ヲ製造スル場合ニ於ケル官給品受拂整理要領第二號ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ官給品受領證及官給品預リ證ニハ所在監督官ノ認印ヲ受クルモノトス

同要領第三號中「二通ニ所在監督官ノ認印ヲ受ケ」ヲ削ル

(參照) 昭和十六年七月三十一日海軍公報(部内限)

○辭 令

四千貳百圓

坂部 房雄

(各通)

參千六百圓

高尾 八郎

千八百六拾六圓

松井 好生

第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額(各頭普ノ通)ヲ給シ部内限奉任官

千八百六拾六圓

加藤 孫平

待遇トス(海軍省)

(各通) 參千六拾圓

中島 清

第十一特別工作部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限委任官待遇トス(六〇〇同)

伊勢 福治

(各通)

スラバヤ地方海軍運輸部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス(九〇〇同)

中村 五百藏

臺北帝國大學教授兼臺灣總督府農業試驗所技師

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(九五〇同)

一色 周知

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千五百圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(七〇〇同)

高見 基

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千五百圓ヲ給シ部内限委任官待遇トス(三五百同)

山岸 義太

田中 守三

海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金貳百圓ヲ贈與ス

海軍省事務囑託ヲ解ク

大久保 太三郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス(以上三九〇同)

西脇 寛

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス

臺灣總督府糖業試驗所技師兼臺灣總督府技師

桐生 知次郎

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

澁谷 剛

南西方面艦隊ボルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限委任官待遇トス(以上一七〇同)

松本 榮吉

佐世保鎮守府ニ於ケル通信事務囑託ヲ解ク

市川 大治郎

農林技師 高木 惇

占部 永藏  
吉村 糸治郎  
加藤 清六

(各通)

徳岡 敏男

永山 甲

原 武

沼里 實

酒井 荒十

中村 勝美

千葉 不二男

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(廿二回同)

大森 四郎

南西方面艦隊ホルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(廿五回同)

遞信局事務官 玉井 秋市

第八海軍軍用郵便所長ヲ免ス(廿七回同)

長崎監理官ヲ命ス(廿八回同)

海軍艦政本部造船監 督官海軍技術中佐 本多 政徳

海軍技術會議議員海軍大佐 松尾 祐一

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(廿九回同)

中野 直枝

海軍省事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(廿三回同)

西野 徹

海務局醫官 元村 彰

同 檢疫醫 前田 利雄

同 同 是枝 哲熊

同 同 久野 乾二

大阪警備府ニ於ケル事務ヲ囑託ス 加唐 勝三

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 古市 龍雄

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス 早坂 力

河野 通一

藤島 龜太郎

(各通)

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

間宮 直香

南西方面艦隊ホルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍公報(部内限) 第四千二百五十五號

昭和十七年十二月一日

一三六一

長尾 宗次

第十一海軍航空廠總務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

中島 彪三

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

野村 覺一

南西方面艦隊ホルネオ民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

山内 保三

大本營海軍報道部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

大藏事務官兼大東亞事務官 前野 直定

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上三同)

海軍大佐 長 澤 浩

第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

海軍少佐 大松 勝藏

第一課勤務ヲ命ス(計部同)

海軍中佐 菊地 豊吉

カリテヤ號派遣隊員ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支

拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(計部支出官 海軍省經理局長)

○ 雜 款

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度  
隊、司令、軍醫長宛 照 月  
機關長、主計長宛 秋 月  
追テ當隊分離行動中ニ付各艦ニ關係アリ急ヲ要ス  
ルモノハ寫直送相成度  
(第六十一驅逐隊)

○事務開始

第一百一設營隊事務所ヲ吳海兵團内ヨリ芝浦建築部内ニ  
移轉、本月二十六日ヨリ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

呂號第一百二潜水艦艦裝具事務所ハ十一月十七日撤去セ  
リ  
追テ郵便物ハ吳郵便局氣付

○正誤

十一月三十日海軍公報(部内限) 雜款欄「十一月一日  
辭令」ノ訂正ハ「十月一日辭令」ノ誤

# 海軍公報

(部内限) 第四千二百五十六號

昭和十七年十二月 日(水)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房第七一四二號

臨時軍事費特別會計法第四條ノ規定ニ依ル物資ノ賣拂ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年十二月一日

海 軍 大 臣

一 賣拂ヲ爲シ得ルハ各應ニ於テ現ニ保有スル物資ニシテ之ヲ賣拂フニ非ザレバ軍ノ需要充足ノ爲支障アル場合ニ限ル

二 賣拂ノ價格ハ市價(公定價格アルモノハ公定價格)トシ市價明ナラザルモノニ付テハ帳簿價格ニ依ルモノトス

三 應長賣拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ品種、數量、賣拂價格(計算ノ基礎ヲ附記ス)及賣拂ノ相手方並ニ其ノ賣拂ヲ必要トスル事由ヲ具シ豫メ海軍大臣ノ認許ヲ受クベシ

賣拂ノ價格十萬圓ヲ超エザルモノハ認許ヲ受クルコトヲ要セズ此ノ場合ニ於テハ事後前項ニ準ジ海軍大臣ニ報告スベシ

四 戰地ニ在ル各應ニ於テハ作戰上又ハ軍政實施上必要アル場合ハ前二號ニ依リ其ノ保有スル物資ヲ賣拂フコトヲ得

五 賣拂代金ノ歲入科目ハ軍資金(款、項)、雜收入、物品拂下代トス

### ○通 牒

官房第七一三七號

昭和十七年十二月一日

海 軍 次 官

各所屬長官殿

官應ニ於ケル職域貯蓄ノ實踐ニ關スル件申進

戰時下必勝ノ態勢強化ノ爲國民貯蓄ノ増強愈々緊切ヲ

海軍公報(部内限) 第四千二百五十六號 昭和十七年十二月二日

一二六三

加ヘタル折柄官應勤務者ハ特ニ率先垂範シ貯蓄報國ニ努ムル爲官應ニ於ケル國民貯蓄組合ヲ結成スルコトニ今般閣議決定セラレ候處海軍ニ於テハ從來貯蓄ノ斡旋ニ付優良ナル成績ヲ擧ゲツツアルモ尙更ニ之ガ増強ニ極力協力ノ必要ヲ認メ官衙學校ニ勤務スル軍人、軍屬、囑託者及工(鑛)員ヲ以テ左記要領ニ依リ國民貯蓄組合ヲ組織シ以テ職域貯蓄ノ實踐ニ邁進スルコトニ定メラレ候ニ付之ガ實施方可然取計相成度

追テ艦船部隊ニ在リテハ從來程度ノ貯蓄ヲ爲スコトトシ之ガ取扱ニ付テハ海軍省經理局長ヲシテ通牒セシメラル但シ特別ノ事由アルトキハ所屬長官ノ定ムル所ニ依リ本貯蓄ヲ行ハザルコトヲ得ルモノトス

## 記

一 應長ハ國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲所屬員ヲ以テ國民貯蓄組合法ニ依ル國民貯蓄組合ヲ組織スルモノトス  
 二 前項ノ國民貯蓄組合ハ當該應ノ名ヲ冠スルヲ例トス  
 三 國民貯蓄組合ニハ之ヲ管理シ代表スル組合長ヲ置ク  
 四 前項ノ組合長ハ應長部下ノ高等官ノ中ヨリ之ヲ選任スルモノトス

應長組合長ヲ選任シタルトキハ選任ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ所屬長官ニ届出ツルモノトス組合長解任ノトキ亦同ジ

三 國民貯蓄組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ノ標準ハ別表ニ依ル

四 國民貯蓄組合ノ斡旋ヲ爲ス貯蓄ハ左ノ方法中ヨリ當該國民貯蓄組合ニ於テ適當ト認ムルモノヲ選定スルモノトス

イ 郵便貯金

ロ 銀行預金

ハ 信託會社ヘノ金錢信託

ニ 國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入

ホ 其ノ他特ニ定ムルモノ

五 國民貯蓄組合ノ貯蓄ハ各組合員ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

六 前項ノ貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ハ組合長之ヲ保管スルモノトス

各應ニ於テ必要アリト認ムルトキハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ貯蓄スルコトヲ得ルモノトス  
 前號第二項ノ規定ハ前項ノ貯蓄ニ之ヲ準用スルモノ

トス

七 各廳ニ於テ國民貯蓄組合ヲ組織シタルトキハ成立ノ日ヨリ二週間以内ニ組合長ハ國民貯蓄組合設立届ニ組合規約ヲ添附シ所屬長官ニ届出テ所屬長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スルモノトス組合規約ヲ變更シタルトキ亦同ジ

八 國民貯蓄組合解散シタルトキハ解散當時ノ組合長ハ解散ノ日ヨリ二週間以内ニ解散ノ年月日、解散ノ理由及各組合員ノ貯蓄ノ處理方法ヲ記載シタル解散届ヲ所屬長官ニ提出シ所屬長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スルモノトス

九 國民貯蓄組合ハ毎會計年度ノ貯蓄増加目標額ヲ定メ其ノ達成ニ必要ナル貯蓄計畫ヲ樹ツルモノトス

十 國民貯蓄組合ノ組合員ト爲リタル者ノ昭和十三年官房第三〇八四號ニ依ル貯金ハ之ヲ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ニ振替ヘルモノトス

十一 國民貯蓄組合ノ組合員轉動、退職、死亡等ノ場合ハ當該組合員ノ貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ハ之ヲ本人又ハ遺族ニ交付スルモノトス

前項ノ規定ハ組合ノ代表者ノ名義ヲ以テ爲シタル貯蓄申本人ニ屬スル貯蓄ニ付之ヲ準用スルモノトス

十二 本令ニ定ムルモノノ外國民貯蓄組合ニ關スル報告、檢査其ノ他細目ニ關シテハ海軍省經理局長ヲシテ通牒セシム

十三 本令ハ昭和十七年十二月十日ヨリ之ヲ實施スルモノトス

昭和十三年官房第三〇八四號及昭和十六年官房第三一九八號ハ本令實施ト同時ニ之ヲ廢止ス

(別表添)

官房機密第一四八五二號  
昭和十七年十二月一日

海軍次官

關係廳長殿

特設艦船部隊ニ勤務スル海軍軍屬ノ戰時召集延期ニ關スル件申進

客年官房機密第七七五號及同第一一九七七號申進首題ノ件ハ十二月一日以後廢止セラレ候ニ付自今主トシテ戰地ニ行動又ハ所在ノ特設艦船部隊ハ兵備勞機密第一九一號ニ依リ處理相成度

(參照) 官房機密第七七五號(海軍公報(部内限)昭和十六年八月二十七日)、官房機密第一一九七七號(海軍公報(部内限)昭和十六年十二月十六日)、兵備勞機密第一九一號(海

海軍公報(部内限)第四千二百五十六號

昭和十七年十二月二日

一二六五

軍公報(部内限) 昭和十七年三月二日

軍務一機密第八八二號

昭和十七年十二月一日

海軍省軍務局長  
海軍省經理局長

民政政府總監  
各民政部長官  
各民政部長

民政豫算編成ニ關スル件申進

民政政府所屬各民政廳ノ豫算ハ各廳ニ於テ概算書ヲ作製  
ノ上民政政府總監ニ於テ所管地域全般ノ事情ヲ勘案シ各  
地域間有無相通シ緩急ヲ考慮シ適宜收支金額ヲ加除修  
正シ民政一體的發達ニ留意シテ編成セシメラルル義  
ト承知相成度

經給第二〇四號

昭和十七年十二月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

職域貯蓄ノ實踐ニ關スル件通牒

今般官房第七一三七號ヲ以テ首題ノ件令達セラレ候處  
國民貯蓄組合ノ運営等ニ付テハ概ネ左記ニ依リ處理セ

ラルル様致度

記

- 一 國民貯蓄組合ハ各廳毎ニ一組合トシ必要ニ應ジ部  
又ハ課等ニ支部ヲ置クコトヲ得ルモノトス
- 二 國民貯蓄組合及同支部ニハ夫々理事及貯蓄實行委  
員若干名ヲ置クモノトス
- 三 國民貯蓄組合ノ組合長(以下組合長ト稱ス)ハ總  
組員名簿及其ノ斡旋ニ依ル各組員毎ノ貯蓄現在  
高ヲ記載シタル組合貯蓄臺帳(支部ヲ置ク場合ハ組  
合貯蓄臺帳總括表)ヲ作成シ之ヲ事務所ニ備付クル  
モノトス
- 四 理事ハ組合長ノ旨ヲ承ケ國民貯蓄組合ノ事務ヲ掌  
理スルモノトス支部理事ハ支部ノ組員名簿及組合  
貯蓄臺帳ヲ作成シ之ヲ保管スルモノトス
- 五 貯蓄實行委員ハ貯蓄標準ノ適用、貯蓄ノ推進、事務  
ノ連絡等ニ當ルモノトス
- 五 甲乙ノ中間ノ貯蓄標準トハ乙ノ貯蓄標準ヲ超ユル  
適宜ノ率ヲ謂フ但シ俸給及給料ノ月收五十圓以下ノ  
モノ(扶養家族アルモノ)ニ對シテハ乙トス
- 六 組合長ハ九月及翌年三月ノ各月末現在ニ依リ國民  
貯蓄組合現況報告書ヲ各翌月二十日迄ニ海軍會計監



(別表)

(昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限))

月 收 區 分	貯蓄標準				賞 額 區 分	賞 與			
	俸給、給料、賃錢		賞與			甲		乙	
	扶養家族 アルモノ	扶養家族 ナキモノ	扶養家族 アルモノ	扶養家族 ナキモノ	扶養家族 アルモノ	扶養家族 ナキモノ	扶養家族 アルモノ	扶養家族 ナキモノ	
五〇圓以下ノモノ	一〇%以上	一七%以上	一〇%以上	一五%以上	一〇〇圓以下ノモノ	二〇%以上	三五%以上	一五%以上	三〇%以上
一〇〇圓	一五%	二七%	一〇%以上	二〇%	一〇〇圓	二五%	四〇%	二〇%	三五%
二〇〇圓	一七%	三二%	一〇%以上	二五%	二〇〇圓	三〇%	四五%	二五%	四〇%
三〇〇圓	一九%	三七%	一二%	三〇%	三〇〇圓	三五%	五〇%	三〇%	四五%
五〇〇圓	二二%	四二%	一五%	三五%	五〇〇圓	四五%	五〇%	三五%	四五%
五〇〇圓ヲ超ユルモノ	二五%	四七%	一八%	四〇%	一〇〇〇圓ヲ超ユルモノ	四〇%	五五%	三五%	五〇%

備考

- 一 鎮守府所在地、東京市、大阪市、京都市、名古屋市、神戸市、横浜市及其ノ隣接市町村ニ在ル各廳ニ勤務スル者ハ乙ヲ適用シ其ノ他ニ在リテハ其ノ地方ノ事情ニ依リ所屬長官ニ於テ適宜甲ヲ適用シ又ハ甲乙ノ中間ノ貯蓄標準ヲ定ムルモノトス
- 二 本令ニ依リ貯蓄ヲ爲ス者地域組合ニ加入セル場合ハ地域組合ニ於テ貯蓄スル金額ノ限度ニ於テ前號ノ貯蓄標準ニ依ル貯蓄額ヨリ減額スルコトヲ得
- 三 自己ノ家屋ヨリ通勤スル者、扶養家族ナキ者ニシテ父兄等ヨリ扶養ヲ受クル者等ニ對シテハ所屬長官ノ定ムル所ニ依リ所定ノ貯蓄標準ノ五割以内ノ増率ヲ用フルコトヲ得
- 四 四人以上ノ扶養家族ヲ有スル者、長期ニ亘リ介護ヲ要スベキ病者又ハ不具癡疾者ヲ有スル者、子弟ヲ遊學セシメ學費ノ仕送りヲ爲シ居ル者等ニ對シテハ所屬長官ノ定ムル所ニ依リ所定ノ貯蓄標準ノ五割以内ノ減率ヲ用フルコトヲ得
- 五 家庭等ニ於テ生命保険料ノ拂込ヲ爲ス者(當該生命保険料ノ拂込ヲ他種ノ國民貯蓄組合ノ貯蓄トシテ實行スル者ヲ除ク)又ハ賞與ノ一部ヲ以テ負債ノ償還ヲ爲サントスル者ニ對シテハ賞與額中ヨリ拂込金相當額又ハ償還金額相當額ヲ控除シタル金額ヲ基本トシテ貯蓄標準ノ適用ヲ爲スコトヲ得
- 六 賃錢ニ付テハ基本賃錢ノ二十五日分ヲ以テ月收ト看做スモノトス
- 七 貯蓄率ノ適用ニ依リ算出シタル金額ニ圓位未滿ノ端數ヲ生ジタル場合ハ端數ノ切上ヲ爲スモノトス

督規程ニ定ムル監督ノ區分ニ從ヒ海軍省經理局長又ハ海軍經理部長ニ提出スルモノトス

海軍經理部長ハ前項ノ國民貯蓄組合現況報告書ニ基キ之ガ様式ニ準ジ國民貯蓄組合現況報告總括表(道、府、縣、朝鮮、臺灣、關東州及樺太毎ニ別紙トス)ヲ作成シ十月末日及四月末日迄ニ之ヲ海軍省經理局長ニ提出スルモノトス

七 海軍兵學校及海軍機關學校ニ於ケル國民貯蓄組合ノ組合長國民貯蓄組合ニ關スル書類ヲ所屬長官ニ提出シタルトキハ其ノ寫ヲ當該學校ノ會計事務ヲ監督スル海軍經理部長ニ提出スルモノトス

八 地域組合ニ加入セル者各應ノ國民貯蓄組合ノ貯蓄標準ニ依ル貯蓄額ヨリ減額ノ取扱ヲ受ケントスルトキハ地域組合ノ斡旋ニ依ル貯蓄ヲ爲シアルコトニ付該地域組合ノ組合長ノ證明書ヲ提出スルモノトス  
前項ノ規定ハ地域組合ニ加入前隣組等ニ於テ自己ノ名義又ハ當該代表者ノ名義ヲ以テ貯蓄ヲ爲ス者ニ之ヲ準用スルモノトス

九 生命保険料ノ拂込金相當額又ハ負債ノ償還金額相當額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ該拂込金額又ハ償還金額タルコトヲ證スルニ足ル書類ヲ提出又ハ呈示ス

ルモノトス

前項ノ控除ハ前賞與期日ノ屬スル月ノ翌月ヨリ該控除ヲ受ケントスル賞與期日ノ屬スル月迄ノ期間ニ於テ既ニ拂込若ハ償還シタルモノ又ハ拂込若ハ償還期日ノ到來スルモノニ付之ヲ行フモノトス

十 微用工(贖)員ニ付テハ定期ノ増加賞與ハ全額之ヲ國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依リ貯蓄セシメ其ノ額貯蓄標準ニ依ル貯蓄額ニ達セザルトキハ貯蓄標準ニ依ル貯蓄額トノ差額ヲ一般賞與ヨリ貯蓄セシムルモノトス

十一 國民貯蓄組合ノ組合員官衙學校ニ轉勤シタルトキハ組合長ハ組合貯蓄臺帳(一人別)寫ヲ新所屬應ノ組合長ニ移牒スルモノトス  
新所屬應ノ國民貯蓄組合ニ於テハ前項ノ組合貯蓄臺帳(寫)ヲ繼續使用スルヲ例トス

十二 國民貯蓄組合ハ特定ムル場合ノ外部外ニ對シ貯蓄ニ關シ報告ヲ爲シ帳簿其ノ他ノ物件ノ検査監督ヲ受クルコトナキモノトス

十三 艦船部隊ニ於ケル貯蓄ニ關シテハ所轄長ハ部下ノ高等官ノ中ヨリ貯蓄事務取扱主任ヲ命ジ貯蓄ニ關スル事務ヲ取扱ハシメ所要ノ人員ヲシテ之ヲ補助セ

海軍公報(部内限) 第四千二百五十六號 昭和十七年十二月二日 一二六七

シムルコトヲ得

所轄長前項ノ貯蓄事務取扱主任ヲ命免シタルトキハ該艦船部隊ノ會計事務ヲ監督スル海軍經理部長又ハ海軍省經理局長ニ其ノ官氏名ヲ通報スルモノトス  
十四 前號ノ貯蓄ハ各個人ノ名義ニ於テ郵便貯金、銀行預金等ト爲シ貯金通帳其ノ他ノ證憑書類ハ貯蓄取扱主任之ヲ保管シ轉勤其ノ他ノ事由ニ依リ退應ノ際之ヲ本人ニ交付スルモノトス

十五 第十三號ノ貯蓄ニ關シテハ所轄長ハ九月及三月ノ各月末現在ニ依リ第六號ニ準ジ之ガ貯蓄ノ現況報告書ヲ提出スルモノトス

海軍經理部長ハ第六號第二項ニ準ジ前項ノ現況報告書ノ總括表ヲ提出スルモノトス

(様式六葉添)

(附)

- 1 國民貯蓄組合設立届……………別紙様式第一
- 2 國民貯蓄組合規約……………別紙様式第二
- 3 國民貯蓄組合解散届……………別紙様式第三
- 4 組合貯蓄臺帳……………別紙様式第四
- 5 國民貯蓄組合現況報告書……………別紙様式第五

○ 辭 令

貯金局書記 佐藤 直三

第三海軍軍用郵便所員ヲ命ス(註前海軍省)

第四十二警備隊司令海軍大佐 中野 勝次

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定ス(註前海軍大臣)

海軍主計少尉 中川 敬一

佐世保鎮守府第五特別陸戰隊第二分遣隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス(註前支出官 海軍省經理局長)

海軍主計兵曹長 中村 幸雄

佐世保鎮守府第五特別陸戰隊第一分遣隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計中尉 久津輪 幸吉

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上註前同)

海軍主計中尉 高戸 顯隆

驅逐艦照月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註前同)

海軍主計中尉 高戸 顯隆

驅逐艦照月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註前同)

海軍主計中尉 高戸 顯隆

驅逐艦照月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註前同)

海軍主計中尉 高戸 顯隆

驅逐艦照月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註前同)

海軍主計中尉 高戸 顯隆

0526

様式第一

何國民貯蓄組合設立届

(昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限))

組 合 名	
設立年月日	
貯蓄増加目標額	
摘 要	

右組合規約相添へ及御届候也

昭和 〆年 〆月 〆日

組合事務所所在地

組合長官氏名

所屬長官殿

印

0527

様式第三

何國民貯蓄組合解散届

(昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限))

組 合 名	解 散 年 月 日	解 散 時 に 於 け る 貯 蓄 現 在 高	解 散 ノ 事 由  (何國民貯蓄組合 設立ニ因ル)	貯 蓄 ノ 處 理 方 法  (新組合ニ引繼)

(今般何國民貯蓄組合設立ニ依リ)當組合解散致候間及御届候也

昭和 年 月 日

組合事務所所在地

組合長官氏名

所屬長官殿

(註) ( ) 内ハ例ヲ示ス

回

## 何國民貯蓄組合規約

第一條 本組合ハ「」國民貯蓄組合ト稱シ戰時貯蓄ノ勵行ヲ爲スヲ以テ目的トス、事務所ヲ「」ニ置ク

(註) 「」ノ箇所ニハ「廳名」又ハ「學校名」ヲ記入スルコト

第二條 本組合ハ「」ニ勤務スル者ヲ以テ組織ス

「」ニ勤務スル者ハ本組合ニ加入スルモノトス

(註) 「」ノ箇所ハ前條ノ註ニ依ルコト

第三條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長	一名
理事	何名
執行委員	若干名

組合長ハ組合ヲ管理シ之ヲ代表ス、「1」ヲ以テ之ニ充ツ

理事ハ組合長ノ旨ヲ承ケ共事務ヲ掌理ス、「2」ヲ以テ之ニ充ツ

執行委員ハ理事ノ旨ヲ承ケ貯蓄標準ノ適用、貯蓄ノ推進、連絡事務等ニ當ル、組合員中ヨリ組合長之ヲ委嘱ス

(註) 「1」ノ箇所ニハ廳長ノ選任シタル高等官ヲ、「2」ノ箇所ニハ判任官以上ノ者ヲ記入スルコト

第四條 本組合ハ毎年度ノ初ニ於テ其ノ年度ノ貯蓄増加目標額ヲ定メ其ノ達成ニ必要ナル貯蓄計畫ヲ樹

立ス、組合員ハ之ニ基キ附表ノ貯蓄標準ニ據リ貯蓄ヲ實行スルモノトス

第五條 本組合ハ諸給與ノ支拂日ニ於テ「1」ニ依頼シ組合員ノ貯蓄額ヲ差引キ組合員ノ名義ヲ以テ

「2」「2」ヲ爲スモノトス

(註) 「1」ノ箇所ニハ主計長若ハ給與課長又ハ之ニ準ズル者ヲ、「2」ノ箇所ニハ組合ノ斡旋スル貯

蓄ノ種類ヲ記載スルコト

組合員ノ貯蓄ニ關スル通帳又ハ證書ハ組合ニ於テ保管ス組合長ハ少クモ毎年一回以上之ヲ組合員ニ

呈示スルモノトス

第六條 組合貯蓄ハ左ノ場合ニ於テ組合長ノ承認ヲ得テ其ノ拂戻ヲ受クルモノトス

- 一 組合ヲ脱退シタルトキ但シ轉勤ニ因リ脱退シタル場合ヲ除ク
- 二 組合ノ斡旋ニ依リ國債、貯蓄債券又ハ報國債券ヲ購入セントスルトキ
- 三 組合員又ハ家族ノ疾病、災害、吉凶等ニ因ル不時ノ費用ニ充ツルトキ
- 四 其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ

第七條 組合員ノ脱退ハ退職又ハ轉勤ノ場合ニ限ルモノトス

轉勤ニ因リ脱退シタル組合員ノ組合貯蓄ハ組合長之ヲ本人ニ交付シ本人ハ之ヲ轉勤先ノ國民貯蓄組合

ニ引繼グモノトス

## 附則

本規約ハ昭和 年 月 日ヨリ之ヲ實施ス

(註) 附表ハ次官申進ニ依ル貯蓄標準ニ依リ作成スルモノトス

様式第四ノ(イ)

(昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限))

## 組合貯蓄臺帳

(集計表)

(貯蓄ノ種類)

(組合、支部ノ名稱)

月別	新規貯蓄額		拂出額		貯蓄現在額		組合員數	備考
	円	銭	円	銭	円	銭		
前年度ヨリ繰越分								
4月分								
5月分								
6月分								
7月分								
8月分								
9月分								
10月分								
11月分								
12月分								
1月分								
2月分								
3月分								
計								

- (註) 1 本臺帳ニハ各組合員ノ貯蓄スル金銭若ハ買入ルル有價證券ガ組合ヲ通ジテ授受セラルル場合又ハ貯蓄ノ拂戻若ハ有價證券ノ賣却ニ付組合長ノ同意ヲ要スル場合ノ貯蓄ニ限リ之ヲ記載スルモノトス
- 2 二種以上ノ貯蓄ヲ取扱フ場合ニ於テハ貯蓄ノ種類毎ニ別紙トスルコト
- 3 新規貯蓄額ニハ轉入者ニ依ル増額ヲ、拂出額ニハ轉出、退職、死亡等ニ依ル減額ヲ夫々含ムモノトス
- 4 本様式ニ準ジ總括表ヲ作成スルコト

0530

様式第四ノ(ロ)(紙質適宜、日本標準規格B5判) (昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限))

組合貯蓄臺帳 (一人別)

(貯蓄ノ種類) (昭和 年 月 日組合加入)

組合員官氏名

月 日 (前年度ヨリ 繰越分)	新規貯蓄額		拂出額		貯蓄現在額		備 考
	円	銭	円	銭	円	銭	
計							

- (備考) 1 本臺帳ニハ各組合員ノ貯蓄スル金錢若ハ買入ルル有價證券ガ組合ヲ通ジテ授受セラルル場合又ハ貯蓄ノ拂戻若ハ有價證券ノ賣却ニ付組合長ノ同意ヲ要スル場合ノ貯蓄ニ限リ之ヲ記載スルモノトス
- 2 同一組合員ニシテ二種以上ノ貯蓄ヲ爲ス場合ニ於テハ貯蓄ノ種類毎ニ別紙トスルコト
- 3 國債、債券等ニ付テハ其ノ額面金額ニ依ラズ購入額ヲ新規貯蓄額トシテ記載スルコト



様式第五

(昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限))

組合事務所所在地

何國民貯蓄組合長 官 氏 名 圖

昭和 年 月 日

(海軍經理部長殿  
海軍省經理局長)

國民貯蓄組合現況報告書

昭和 年 月 末現在

貯蓄組合ノ現勢		組合貯蓄ノ管理狀況		備考
組合員資格者數	組合員數	一、金錢貯蓄 (郵便貯金) 計	二、保有有價證券 (國債) 計	
本年度支給濟給與總額	本年度貯蓄增加額	三、一及二ノ合計		
貯蓄現在額	前年度末貯蓄現在額			
差引貯蓄增加額	本年度貯蓄增加目標額			

(註) ( ) 内ハ例ヲ示ス

備考

- 一、金錢貯蓄ノ欄ハ郵便貯金、特別銀行、普通銀行、貯蓄銀行、信託會社其ノ他ニ區分シ該當分ノミヲ記載スルコト
- 二、保有有價證券ノ欄ハ國債、貯蓄債券、報國債券其ノ他ニ區分シ該當分ノミヲ記載スルコト
- 三、貯蓄現在額ト三ノ合計金額トハ符合スベキモノトス
- 四、本年度支給濟給與總額ノ欄ハ九月末現在ノモノニ在リテハ四月―九月ノ間、三月末現在ノモノニ在リテハ四月―三月ノ間ニ於ケル組合員資格者ニ對スル俸給、給料、賞與等ノ支給總額ヲ記載スルコト
- 五、國民貯蓄組合現況報告總括表ノ様式ハ本様式ニ準スルモノトス

<p>海軍主計少尉 中村 盛人        驅逐艦秋月ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲        自昭和十七年十月七日 間艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ        至昭和十七年十二月一日 命ス(同)        命ス(同)</p> <p>海軍少佐 西郡 雄次        第一課勤務ヲ命ス(同海軍運輸部)</p>	<p>○雜款        ○教育資料送付ノ件        本校練習生ノ精神教育資料ト致度ニ付今次大東亞戰爭        勃發以來被害等ニ際シ身ヲ以テ應急作業等ニ任シ衆人        ノ儀表トスベキ者有之候ハバ其ノ略歴戰歴竝ニ寫眞一        葉宛送付方取計相成度        (海軍航海學校)</p>	<p>○事務開始        第三十八號驅潛艇艇裝員事務所ヲ十一月二十一日横濱        市鶴見區末廣町日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置        シ事務ヲ開始セリ        呂號第三十五潛水艦艇裝員事務所ヲ十一月二十七日三        菱神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>
<p>○着任、退廳        新任 水路部第三部第六課長兼第七課長        前任 海軍少佐 毛利剛二郎 十一月十六日着任        前任 同        新任 水路部第一部長 松本龜太郎 十一月二十四日退廳        前任 海軍少將 清田孝彦 十一月十九日着任        前任 同        海軍大佐 有賀武夫 十一月十九日退任</p>	<p>○取消        九月十六日辭令欄九九二頁下段今田正治及本廣勇ノ辭        令ハ取消ス</p>	<p>○正誤        十一月三十日海軍公報(部内限)官房第七〇四二號中        「貯蓄債券等買入」トアルハ「貯蓄債券等買入率」ノ誤</p>

海軍公報(部内限) 第四百二百五十六號

昭和十七年十二月二日

一三六九

# 海軍公報

(部内限)第四千二百五十七號

昭和十七年十二月三日(木)

## 海軍大臣官房

### ○ 令 達

官房機密第一四八九〇號

昭和十四年官房機密第六五八九號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月二日

海 軍 大 臣

〔(假稱)〕ヲ削ル

第二號中「假稱ス」ヲ「稱ス」ニ改ム

第四號中「所管鎮守府司令長官」ヲ「所管鎮守府司令

長官(海軍經理學校ニ於テ講習スル場合ハ海軍經理學

校長以下同ジ)」ニ改ム

(參照) 昭和十四年官房機密第六五八九號ハ各種特技兵(假稱)臨

時講習並ニ人事取扱ニ關スル件ナリ(内令提要卷一、六七

官房機密第一四八九一號

當分ノ間木更津海軍保健所ハ第一航空基地隊ヲシテ之

ヲ管理維持セシム

昭和十七年十二月二日

海 軍 大 臣

官房機密第一四八九三號

昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月二日

海 軍 大 臣

第一項第一號中「(殘留隊ヲ除ク)」ヲ削ル

同項第六號中「及航空隊」ヲ「、航空隊及特設航空基

地隊」ニ改ム

### 附 則

本令ハ昭和十七年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用

ス

官房機密第一四八九四號

兵役法施行令第六條第二項前段ノ規定ニ依リ海軍豫備

員候補者ヲシテ現役ノ實務ニ就カシムル場合其ノ教育

場所ハ當分ノ間海軍豫備學生規則、海軍豫備生徒規

則、海軍豫備練習生規則及海軍豫備補習生規則ノ規定

ニ拘ラズ艦船部隊其ノ他海軍各部トス  
本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年十二月二日

海軍大臣

○ 辭令

澁川丸一等運轉士 笠間 久信  
囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(此ノ海軍省)

(各通) 遞信局技手 今田 正治  
同 本 廣 勇

吳鎮守府附ヲ免ス(此ノ同)

(各通) 機械工員 竹重 三春  
線路工員 山下 幸太郎

吳鎮守府附ヲ免ス(此ノ同)

海軍大佐 今田 乾吉

軍港要港勢力標準調査委員會委員ヲ命ス

(各通) 海軍大佐 今田 乾吉  
海軍中佐 小林 儀作

燃料政策調査委員會委員ヲ命ス

海軍大佐 今田 乾吉

能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス

(各通) 同 三宅 正彦  
同 宮川 義平  
同 齋藤 昇

(各通)

同 三宅 正彦  
同 宮川 義平  
同 小山 敏明  
同 齋藤 昇  
海軍中佐 市吉 聖美  
海軍少佐 川又 政信

海軍規格審議會議員ヲ命ス

海軍大佐 齋藤 昇

臺灣支那方面施設制度調査委員會委員ヲ命ス

陸海軍石油委員會幹事ヲ命ス

海軍中佐 市吉 聖美

(各通)

同 小林 儀作

陸海軍石油委員會幹事輔佐ヲ命ス

同 德田 徳男

(各通)

海軍大佐 齋藤 昇  
海軍中佐 市吉 聖美

<p>南西方面施設制度調査委員命ス 同 德田 徳男</p> <p>(各通) 海軍中佐 奥田 増藏 同 市吉 聖美</p> <p>購買名簿調査委員命ス 海軍中佐 奥田 増藏 海軍少佐 大迫 隼夫</p> <p>(各通) 海軍中佐 堀江 隆介 同 奥 末 廣 同 德田 徳男 海軍少佐 橋 秀 雄</p> <p>潜水艦調査委員命ス 海軍中佐 堀江 隆介 同 奥 末 廣 同 德田 徳男 海軍少佐 橋 秀 雄</p> <p>陸海軍軍需工業動員協定委員命ス 海軍中佐 堀江 隆介</p> <p>思想調査委員命ス 海軍少佐 今井 和夫</p> <p>御府獻納銓衡委員命ス 同 大迫 隼夫</p> <p>海軍武官任用委員命ス</p> <p>海軍學生銓衡委員命ス</p> <p>海軍生徒採用試験常置委員命ス</p>	<p>恩賜研學賜金受賞者銓衡常置委員命ス 同 橋 秀 雄</p> <p>海軍用語調査委員命ス 海軍中佐 櫻井 俊三 同 高 田 満 海軍少佐 林 清三</p> <p>(各通) 海軍豫備學生採用試験委員命ス(以上皆海軍省) 海軍中佐 石原 宇一 海軍理事官 小市 薫男</p> <p>(各通) 第三課勤務ヲ免シ第一課勤務ヲ命ス(以上皆海軍省兵備局) 海軍軍醫少佐 原 康 夫(大鯨)</p> <p>軍艦大鯨審議委員命ス 海軍軍醫大尉 天海 隆一郎</p> <p>軍艦大鯨審議委員ヲ免ス(以上皆海軍艦政本部)</p>
<p>○ 雜 款</p>	
<p>○ 郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度 司令、主計長、軍醫長 機關長 眉山丸 女島丸 (第三十三掃海隊)</p>	

海軍公報(部内限) 第四百二百五十七號

昭和十七年十二月三日

一二七三

○軍事郵便物再送ノ件照會

自十二月一日間佐世保郵便局(長崎局經由)ニ於テ取扱  
至十二月七日ノ中支方面行郵便物ハ事故ノ爲全部亡失ニ付該當ノ公  
用書類ハ至急再送付方取計ハレ度  
一 推定亡失郵便物

(イ) 通常郵便物

佐世保局へ十一月一日一四八到着以降同七日○  
六一二到着迄ノ分ヲ搭載シアリ  
從ツテ差出局ノ遠近如何ニ依リ相違アルモ概ネ大  
阪以東仙臺迄ハ十月二十九日頃ヨリ十一月五日頃  
迄ニ、仙臺以遠ハ十月二十九日頃ヨリ十一月四日  
迄ニ差出ノモノト推定ス

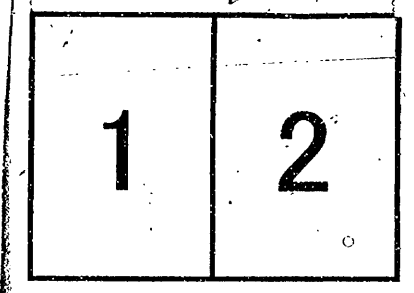
(ロ) 小包郵便物

佐世保局へ十一月一日一七四六到着以降同七日一  
四二三迄ニ到着ノ分ヲ搭載シアリ  
從ツテ差出局ノ遠近如何ニ依リ相違アルモ概ネ大  
阪以東仙臺迄ハ十月二十六日頃ヨリ十一月二日頃  
迄ニ、仙臺以遠ハ十月二十四日頃ヨリ十一月一日頃  
迄ニ差出ノモノト推定ス

(佐世保鎮守府副官)

○事務所撤去  
敷設艇由利高艦裝員事務所ハ十一月二十五日撤去セリ

# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	各機種献納者氏名
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

(別紙)

(昭和十七年十二月三日海軍公報(部内限))

報國番號	名	稱	機	種	獻納者住所氏名
第五六〇號	東京藝舞號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市東橋區橋本三丁目十一番地 全國藝妓同業聯合會 東京支部聯合會 理事 渡邊平次郎	
第五六一號	全國旅館組合號	艦上爆撃機	艦上爆撃機	東京市東橋區木挽町三丁目四番地 全國旅館組合聯合會 理事 川口鑄物工業組合	
第五九七號	川口鑄物號	艦上爆撃機	艦上爆撃機	埼玉縣川口市榮町三丁目 理事 川口鑄物工業組合 八王子市八日町二丁目 東京府織物工業組合八王子支部 理事 小林吉之助	
第六六九號	東京料理飲食號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市下谷區御徒町一丁目一七 東京料理飲食業組合 理事 全國煮豆佃煮惣菜小賣商聯合會	
第六七二號	全國煮豆號	中間練習機	中間練習機	東京市下谷區御徒町一丁目一七 理事 全國煮豆佃煮惣菜小賣商聯合會	
第七一〇號	全國齒科醫師號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市下谷區御徒町一丁目一七 理事 全國齒科醫師聯合會	
第七一七號	清風號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市下谷區御徒町一丁目一七 理事 清風號	
第八八四號	第三日本油脂號	同	同	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 第三日本油脂株式會社 代表 藤田政輔	
第八八五號	日立龜有號	同	同	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 日立龜有株式會社 代表 藤田政輔	
第八八六號	第三女學生號	艦上爆撃機	艦上爆撃機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 第三女學生號 代表 藤田政輔	
第八九〇號	第一辯護士會聯合會號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 第一辯護士會聯合會 代表 藤田政輔	
第八九一號	第二辯護士會聯合會號	艦上爆撃機	艦上爆撃機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 第二辯護士會聯合會 代表 藤田政輔	
第九〇三號	大正製麻號	艦上爆撃機	艦上爆撃機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 大正製麻株式會社 代表 藤田政輔	
第九三八號	農機具號	艦上爆撃機	艦上爆撃機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 農機具號 代表 藤田政輔	
第九五八號	鹽推號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 鹽推號 代表 藤田政輔	
第九九三號	衛生材料號	患者輸送機	患者輸送機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 衛生材料號 代表 藤田政輔	
第一〇六一號	文化服裝學院號	艦上戦闘機	艦上戦闘機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 文化服裝學院 代表 藤田政輔	
照準演習機報國號	久壽號	照準演習機	照準演習機	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 久壽號 代表 藤田政輔	
高角砲報國號	東京帽子號	高角砲、補用品共	高角砲、補用品共	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 東京帽子號 代表 藤田政輔	
第六〇〇號	第一石河號	測距儀(乙)	測距儀(乙)	東京市日本橋區本町三ノ八 理事 第一石河號 代表 藤田政輔	
第六〇一號	第二石河號	測距儀(甲)	測距儀(甲)	東京市日本橋區本町三ノ八 理事 第二石河號 代表 藤田政輔	
第一七〇號	第一日本燃系號	陸戰機銃(甲)	陸戰機銃(甲)	東京市東橋區銀座西八丁目五番地 理事 第一日本燃系號 代表 藤田政輔	
第一七一號	第二日本燃系號	陸戰機銃(甲)	陸戰機銃(甲)	東京市東橋區銀座西八丁目五番地 理事 第二日本燃系號 代表 藤田政輔	
第一七二號	第三日本燃系號	陸戰機銃(甲)	陸戰機銃(甲)	東京市東橋區銀座西八丁目五番地 理事 第三日本燃系號 代表 藤田政輔	
第一七三號	第四日本燃系號	陸戰機銃(甲)	陸戰機銃(甲)	東京市東橋區銀座西八丁目五番地 理事 第四日本燃系號 代表 藤田政輔	
第六二二號	大東京煙草號	防空測距儀	防空測距儀	東京市日本橋區本町三ノ八 理事 大東京煙草號 代表 藤田政輔	
第五六六號	全國齒科醫師號	九米内火艇	九米内火艇	東京市下谷區御徒町四ノ九 理事 全國齒科醫師聯合會 代表 藤田政輔	
第一〇一號	日立龜有號	機銃取付装置共	機銃取付装置共	東京市下谷區御徒町四ノ九 理事 日立龜有號 代表 藤田政輔	
第一〇二號	第一十作業服團服號	同	同	東京市下谷區御徒町四ノ九 理事 第一十作業服團服號 代表 藤田政輔	
第一〇三號	柴田號	同	同	東京市日本橋區通三ノ三ノ四 理事 柴田號 代表 藤田政輔	
第一〇四號	第一十合金鑄造號	磁氣羅針儀	磁氣羅針儀	東京市芝區田村町一丁目三番地 理事 第一十合金鑄造號 代表 藤田政輔	
第一〇五號	第一梁瀬號	空氣壓縮ポンプ	空氣壓縮ポンプ	東京市日本橋區通三ノ三ノ四 理事 第一梁瀬號 代表 藤田政輔	
第一〇六號	第二梁瀬號	陸戰機銃(乙)	陸戰機銃(乙)	東京市日本橋區通三ノ三ノ四 理事 第二梁瀬號 代表 藤田政輔	
第一〇七號	產業組合中央會號	同	同	東京市小石川區指ヶ谷四八 理事 產業組合中央會 代表 藤田政輔	



第七一七號	清風號	艦上戰鬥機	法華宗本願寺講堂	代表 西村日淳
第八八四號	第三日本油脂號	同	東京市芝區田村町一ノ二日産前内	代表 藤田政輔
第八八五號	日立龜有號	同	東京市芝區立大谷町九三	代表 湯淺義一
第八八六號	第三女學生號	艦上爆撃機	全國高等女子專門學校校長協會	代表 三輪田元道
第八九〇號	第一辯護士會聯合會號	艦上戰鬥機	東京市麹町區役所第一番地	大日本辯護士會聯合會
第八九一號	第二辯護士會聯合會號	艦上爆撃機	東京市東區大塚町一ノ一	代表 永一三
第九〇三號	大正製麻號	艦上戰鬥機	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
第九三八號	農機具號	艦上爆撃機	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
第九五八號	鹽推號	艦上戰鬥機	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
第九九三號	衛生材料號	患者輸送機	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
第一〇六一號	文化服裝學院號	艦上戰鬥機	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
照準演習機報號	久壽號	照準演習機	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
高角砲報號	東京帽子號	高角砲、補用品共	東京市麹町區大塚町一ノ一	代表 永一三
第六〇〇號	第一石河號	測距儀(乙)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇一號	第二石河號	測距儀(甲)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇二號	第一日本燃糸號	陸戰機銃(甲)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇三號	第二日本燃糸號	陸戰機銃(甲)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇四號	第三日本燃糸號	陸戰機銃(甲)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇五號	第四日本燃糸號	陸戰機銃(甲)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇六號	大東京煙草號	防空測距儀	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇七號	全國齒科醫師號	九米内火艇	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇八號	日立龜有號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六〇九號	第一十作業服團服號	同	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一〇號	柴田號	同	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一一號	第一十合金鑄造號	磁氣羅針儀	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一二號	第一梁瀬號	空氣壓縮ポンプ	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一三號	第二梁瀬號	陸戰機銃(乙)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一四號	産業組合中央會號	陸戰機銃(乙)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一五號	古流全協號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一六號	築地本願寺報國號	鐵兜	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一七號	第一東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一八號	第二東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六一九號	第三東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二〇號	第四東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二一號	第一東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二二號	第二東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二三號	第三東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二四號	第四東京自轉車工業號	機銃取付装置共	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二五號	第一新國劇號	陸戰機銃(乙)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二六號	第二新國劇號	陸戰機銃(乙)	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎
第六二七號	相撲號	九米内火艇	東京市日本橋區本町三ノ八	石河信次郎

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年十二月三日(木)  
海軍大臣官房

○御言葉

官房第七二〇一號

本日 皇后陛下横須賀海軍病院ニ行啓ノ際本大臣ニ左

ノ御言葉ヲ賜ハリタリ

右謹テ傳達ス

昭和十七年十二月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

御言葉

支那事變ニ引續キ大東亞戰爭トナリ前古未曾有ノ大  
戦果ヲ擧ゲタガ其ノ間將兵ノ勞苦ハ一ト通リデハナ  
カッタコトト思フ戦ニ燈レ傷付キ又病ニ罹ツタ者ニ  
對シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘナイ  
傷病者ハ十分ニ勞ハリ治療ニ手ヲ盡シテ再起御奉公

ノ出來ル様勞メラレン事ヲ望ミマス

海軍公報 (部内限) 號外

# 海軍公報 (部内限) 第四千二百五十八號

海軍大臣官房

昭和十七年十二月四日(金)

## ○表彰

賞 状

中島飛行機株式會社小泉製作所

零式艦上戦闘機二一型ノ急速増産ニ當リ克ク所長以下  
全員一致協力着々良好ナル實績ヲ舉グ帝國海軍ニ貢獻  
スル所尠カラズ仍テ茲ニ之ヲ賞ス

昭和十七年十一月三十日

海軍大臣

## ○辭令

海軍艦政本部造兵監督官兼海軍  
航空本部造兵監督官海軍大佐

河合 深

東京監理官ヲ命ス

東京監査官ヲ命ス

海軍技術會議議員海軍中佐 今里 義光

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

同

海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス

森 實

同

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(以上二名海軍省)

海軍少將 徳 永 榮

高等軍法會議判士ヲ免ス(計同)

海軍中佐 小手川 邦彦

第一課勤務ヲ命ス(計同海軍省人事局)

## ○雜款

○事務所移轉

青葉司令部殘務整理ハ十二月五日以後吳海兵團内ニ於  
テ行フ

# 海軍公報

(部内限) 第四千二百五十九號

昭和十七年十二月五日(土)

## 海軍大臣官房

### ○ 辭 令

獨國ニ於ケル造船造兵監督事務囑託

七千貳拾馬克

酒井直衛

同

五千七百馬克

山本芳男

第二海軍技手養成所教務囑託

千參百圓

大野峻象

同

千參百圓

上江洲山太郎

湊海軍病院齒科治療業務囑託

千四百七拾圓

石黒辨

三重海軍航空隊教授囑託

千四百七拾圓

藤田保雄

同

千四百七拾圓

島村貴郎

同

千參百圓

向島安一

千參百圓 同

生田利治

第一海軍航空廠海軍共濟組合囑託

貳千六百圓

石田捷午

第一海軍火藥廠海軍共濟組合囑託

貳千百拾圓

大槻頼雄

第一海軍燃料廠海軍共濟組合囑託

貳千四百貳拾圓

宇美遠郎

横須賀海軍工廠海軍共濟組合囑託

五千五百圓

草野真五

同

五千貳百五拾圓

兒玉榮一郎

同

四千貳百五拾圓

桑原藤馬

同

參千六百圓

柿沼哲治

同

貳千七百七拾圓

須藤克巳

(通各)

海軍公報(部内限) 第四千二百五十九號

昭和十七年十二月五日

一三七七

<p>横須賀海軍工廠海軍共済組合囑託                  貳千六百圓 大江 克巳                  同                  貳千四百貳拾圓 齋藤 守榮                  佐世保海軍工廠海軍共済組合囑託                  五千參拾圓 祖谷 直行                  同                  四千貳百八拾圓 宮原 博                  同                  參千七百五拾圓 原田 一男                  同                  參千貳百八拾圓 打越 利行                  同                  參千參拾圓 渡邊 喜海                  同                  貳千貳百參拾圓 田中 敏雄                  舞鶴海軍工廠海軍共済組合囑託                  四千七百五拾圓 舛田 義三                  同                  四千圓 難波 松莊</p>	<p>同                  貳千六百圓 山中 勉象                  自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(同海軍省)                  海軍中將 塚原 二四三                  海軍武官任用委員ヲ命ス                  海軍武功調査委員ヲ命ス                  能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス                  海軍少將 矢野 英雄                  海軍學生銓衡委員ヲ命ス                  海軍武功調査委員ヲ命ス(同同)                  海軍中佐 栗野原 仁志                  第二課勤務ヲ命ス(同海軍省軍務局)                  海軍中佐 栗野原 仁志                  第一課兼第二課勤務ヲ命ス(同海軍運輸部)</p>	<p>○雜款                  ○郵便物發送先                  宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載セザル                  コト                  一 豊橋航空基地 愛知縣豊橋市大崎町豊橋航空                  基地</p>
---	---	---

<p>一 第二五三航空隊 横須賀局氣付第三十六軍用郵便所第一派出所經由 「ウ壹七八」</p>	<p>一 第七〇三航空隊 横須賀局氣付 「ウ壹〇五」 「ウ五四」</p>	<p>一 同 第一派遣隊 同 「ウ壹壹五」 「ウ五四」 「ウ七八」</p>	<p>一 同 支隊 横須賀局氣付 「ウ壹〇五」 「ウ六九」</p>	<p>一 第二五二航空隊 佐世保局氣付第四十一軍用郵便所經由「ウ六九」 「ウ壹七四」</p>	<p>一 第七五五航空隊 横須賀局氣付 「ウ壹〇五」 「ウ壹八四」</p>	<p>一 第三五掃海隊司令 部、第三五掃海隊 千葉縣木更津航空基地 「ウ壹參參」</p>	<p>一 五十鈴司令部、親潮、黑潮、早潮、陽炎、高波司令部、高波、卷波、長波、海風、江風、涼風</p>	<p>一 親潮司令部、親潮、早潮、陽炎、高波司令部、高波、卷波、長波、海風、江風、涼風</p>	<p>一 五十鈴司令部、親潮司令部、親潮、早潮、陽炎、高波司令部、高波、卷波、長波、海風、江風、涼風</p>
<p>一 第二十三特別根據地隊 普通便 吳局氣付 「七四五」 「七四壹」 航空便 第二十五軍用郵便所氣付 「七四五」 「七四壹」 普通便 吳局氣付（七四〇） 初雁 臺北局氣付第二十八軍用郵便所經由初雁</p>		<p>一 初雁 ○鐵運便指定ノ件 鐵運便ニヨル當武官府宛物件ハ門司港驛ト指定サレ度 追テ支那各地臺灣及南方行乗船者ノ下車驛モ右ト同 様 (門司在勤海軍武官府)</p>	<p>○事務引繼 前任出納官吏 海軍主計少佐 田島 守雄 後任出納官吏 海軍主計大尉 有本 久男 右十二月二十一日事務引繼了ス (海軍 大學 校)</p>						

海軍公報 (部内限) 第四千二百五十九號

昭和十七年十二月五日

一二七九

# 海軍公報

(部内限) 第四千二百六十號

昭和十七年十二月七日(月)

## 海軍大臣官房

### ○ 令 達

官房機密第一四八二二號

本年十二月一日現在左記上欄各艦ノ職名ヲ有スル者ハ  
特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下  
欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十七年十二月一日

海 軍 大 臣

記

特設水上機母艦	相良丸	特設運送艦	相良丸
同	聖川丸	同	聖川丸
同	讃岐丸	同	讃岐丸

官房第七二七八號

昭和十四年官房第四七九〇號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月五日

海軍公報(部内限) 第四千二百六十號

昭和十七年十二月七日

一三八一

〔明治二十八年海軍省令第三號〕ヲ「昭和十五年海軍省  
令第十三號」ニ改メ「(要港部病院ヲ含ム以下之ニ同  
ジ)」ヲ削ル

(參照) 會計法規類集二卷三四七頁

官房第七二七九號

昭和十四年官房第五九一四號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月五日

海 軍 大 臣

〔候補生〕ノ下ニ「見習尉官」ヲ加ヘ「又ハ要港部病  
院」ヲ削ル

(參照) 會計法規類集二卷三四五頁

官房第七二八〇號

昭和十六年官房第五四四號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月五日

海 軍 大 臣

「今回ノ事變」ヲ「大東亞戰爭」ニ改ム  
第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

艦隊ニ屬スル民政府又ハ民政部所屬ノ軍人、軍屬及  
工(鑛)員ニ對スル俸給、給料又ハ貸錢ハ前項ノ規  
定ニ拘ラズ海軍省經理局ニ於テ之ヲ其ノ家族ニ下渡  
スコトヲ得

(參照) 會計法規類集二卷八〇八ノ二四頁

官房第七二八一號

昭和十六年官房第四五二〇號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月五日

海軍大臣

「要港部」ヲ「警備府」ニ、「(旅順要港部ニ在リテハ旅  
順要港部主計長)」ヲ「(旅順所在各廳ニ在リテハ鎮海  
海軍經理部長)」ニ改ム

(參照) 會計法規類集二卷三五〇ノ二頁

官房第七二八二號

昭和十六年官房第四五二一號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月五日

海軍大臣

「第三十二條」ヲ「第三十一條」ニ、「(旅順要港部ニ在  
リテハ旅順要港部主計長)」ヲ「(旅順所在各廳ニ在リ  
テハ鎮海海軍經理部長)」ニ改ム

(參照) 會計法規類集二卷三五〇ノ二頁

官房第七二八三號

昭和十五年官房第五九一一號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月五日

海軍大臣

第二項中「勤勉手当支給規則所定額」ヲ「昭和十七年  
官房第六六四三號別表ノ金額」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十七年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用  
ス

(參照) 昭和十五年官房第五九一一號ハ戰時停付支給ニ關スル件ヲ  
リ

○ 通牒

官房機密第一二八〇號ノ二一

昭和十七年十二月五日

海軍省副官



<p>各廳長殿</p> <p>郵便物ニ關スル件通牒</p> <p>官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規申左記ノ通り改メラレ候</p> <p>附錄部隊區別符表(其ノ一)申「第三航空隊 ヲ壹八五」ヲ削リ末尾ニ左ノ如ク加フ</p> <table border="1"> <tr> <td>第百壹設營隊</td> <td>ウ壹九八</td> </tr> <tr> <td>第八聯合特陸</td> <td>ウ壹九九</td> </tr> <tr> <td>橫領第七特陸</td> <td>ウ貳〇〇</td> </tr> <tr> <td>第十九設營隊</td> <td>ウ貳〇壹</td> </tr> </table> <p>同 (其ノ四) 中末尾ニ「海軍民政府 セ六四」ヲ加フ</p> <p>軍務一機密第九〇六號</p> <p>昭和十七年十二月七日</p> <p>海軍省軍務局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>俘虜使役狀況ニ關スル件申進</p>		第百壹設營隊	ウ壹九八	第八聯合特陸	ウ壹九九	橫領第七特陸	ウ貳〇〇	第十九設營隊	ウ貳〇壹
第百壹設營隊	ウ壹九八								
第八聯合特陸	ウ壹九九								
橫領第七特陸	ウ貳〇〇								
第十九設營隊	ウ貳〇壹								
<p>近時海軍部内及部外ニ於ケル俘虜使役ノ狀況ヲ新聞、雜誌社等ヨリ見學又ハ撮影等出願シ來ル向有之候處自今一般公表ヲ目的トスル此ノ種見學、撮影等ハ許可セラレザル方針ナルニ付可然取計相成度</p> <p>追テ右ニ關シ必要アル場合ハ中央ニ於テ指導セラルベク候</p> <p>經物第二一〇號</p> <p>昭和十七年十二月五日</p> <p>海軍省經理局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件通知</p> <p>經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件左記ノ通承認致候</p>	<p>會社名</p> <p>古谷德太郎</p> <p>(古谷精機製作所)</p> <p>東京市京橋區銀座西八丁目五番地</p> <p>長 惣右エ門(長組)</p> <p>金澤市宗叔町三番丁二三番地</p> <p>所在地</p>								

海軍公報(部内限)第四千二百六十號

昭和十七年十二月七日

二二八三

海軍公報(部内限) 第四百二十六號 昭和十七年十二月七日

一三八四

阿部 義次郎 (岩佐鐵工所)	東京市深川區森下町二丁目九番地	伊藤 博三郎 (國神鑄物機械製作所)	四日市市朝日町三五一九番地
福田 太一郎 (精密機製作所)	東京市板橋區志村小豆澤町三五番地	金華機械株式會社	岐阜市加納本町四丁目一番地
東洋金屬木工株式會社	大阪市東區安土町二丁目一四番地	合名會社小久保製作所	東京市城東區大島町二丁目九二番地
前田 榮次郎 (前田鐵工所)	東京市向島區吾嬬町東三丁目四番地	合資會社藤永組	八代市萩原町八二番地
株式會社本江機械製作所	富山市下奧井一番地	株式會社マモル工業所	大阪府豐熊郡庄内町菰江五五番地
別府 伊平 (攝津製作所)	大阪市旭區鶴見町一〇一六番地	岩崎 拾與 (東洋鑄造製作所)	飾磨市阿成八二〇ノ二番地
岩下製鋼株式會社	大阪市西淀川區加島町九三五番地	○ 辭 令	
三和食品有限會社	津市大字古河二一一番地	海軍少將 矢野 志加三	
エービーシー製菓株式會社	東京市蒲田區東六郷三丁目二番地	昭和十七年度海軍豫備生徒教育查閱官ヲ命ス	
東洋製菓株式會社	東京市品川區北品川四丁目七四六番地	海軍大佐 岸川 覺雄	
株式會社高橋鐵工所	東京市江戸川區逆井二丁目四四九番地	海軍中佐 鹿江 隆	
林寛機械株式會社	大阪市東區大川町二二(新淀屋橋ビルディング内)	同 永田 茂	
田村 俊平 (ミクロ製作所)	東京市蒲田區仲六郷一丁目七番地	同 林田 綱雄	
山喜精機株式會社	大阪市旭區森小路町三丁目一〇番地	同 井上 士郎	
中村下ラム罐工業株式會社	東京市瀧野川區西ヶ原町一三六八番地	同 飯屋 實	
		同 窪 徳一	

海軍少佐 大迫 隼夫  
昭和十七年度海軍豫備生徒教育査閲官附ヲ命ス(註前  
海軍省)

海軍主計中尉 藤井 眞義  
第三百三十一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂  
ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註前 支出官  
海軍省經理局長)

海軍公報(部内限) 第四千二百六十號 昭和十七年十二月七日

一二八五

# 海軍公報

(部内限) 第四千二百六十一號

昭和十七年十二月八日(火)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房第七三〇九號

鎮守府司令長官ハ兵曹出身ノ在籍特務士官及准士官中  
昭和十八年四月一日現在員ニ就キ氣象又ハ暗號ノ要務  
ヲ執ラシムルニ適當ト認ムル者ニ對シ高等科氣象術又  
ハ高等科暗號術ヲ專修シタルモノト看做スコトヲ得  
昭和十七年十二月七日

海軍大臣

官房第七三一〇號

昭和十七年勅令第八百十七號海軍特修兵令中ノ改正ニ  
依リ掌氣象兵及掌暗號兵ト爲スベキ者ニ對スル人事取  
扱ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年十二月七日

海軍大臣

一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ夫々海軍航海學校高  
等科氣象術練習生又ハ海軍通信學校高等科暗號術練

習生ノ教程ヲ卒業シタルモノト看做ス

(イ) 高等科信號術練習生(氣象班專修)又ハ高等科  
電信術練習生(暗號班專修)ノ教程ヲ卒業シタル  
者ニシテ其ノ特技章ヲ有スルモノ

(ロ) 左ノ區分ニ依ル者ノ中在籍鎮守府司令長官ニ於  
テ適當ト認ムルモノ

(一) 高等科特修兵ニシテ氣象術講習(鎮守府限リ  
施行)ノモノヲ含ム以下同ジ)ヲ修了シタルモノ  
又ハ暗號特技兵タルモノ

(二) 左ノ上欄ニ掲グル者ニシテ氣象術講習ヲ修了  
シタル日又ハ暗號特技兵ヲ命ゼラレタル日ヨリ  
各其ノ相當ノ下欄ニ掲グル期間氣象又ハ暗號ノ  
勤務ニ服シタルモノ

下士官(普通科特修兵)	二年以上
兵長(普通科特修兵)	三年以上

二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ夫々海軍航海學校普

海軍公報(部内限) 第四千二百六十一號 昭和十七年十二月八日

一二八七

- 通科氣象術練習生又ハ海軍通信學校普通科暗號術練習生ノ教程ヲ卒業シタルモノト看做ス
- (イ) 普通科信號術練習生(氣象班專修)又ハ普通科電信術練習生(暗號班專修)ノ教程ヲ卒業シタル者ニシテ其ノ特技章ヲ有スルモノ
- (ロ) 昭和十八年四月一日現ニ高等科信號術練習生(氣象班專修)又ハ高等科電信術練習生(暗號班專修)ノ教程ヲ修業中ノモノ
- (ハ) 左ノ區分ニ依ル者ノ中在籍鎮守府司令長官ニ於テ適當ト認ムルモノ
- (一) 普通科特修兵ニシテ氣象術講習ヲ修了シタルモノ又ハ暗號特技兵タルモノ
- (二) 無章ノ下士官及兵ニシテ氣象術講習ヲ終了シタル日又ハ暗號特技兵ヲ命ゼラレタル日ヨリ六月上ニ氣象象又ハ暗號ノ勤務ニ服シタルモノ
- 三 第一號及第二號ノ該當者ニ對シ特技章ヲ付與スル場合ハ左ノ各號ニ依ル
- (イ) 特技章ノ付與期日ハ昭和十八年四月一日トス但シ掌氣象兵又ハ掌暗號兵ト爲ルベキ者ノ中同日現ニ氣象術又ハ暗號術以外ノ各種練習生トシテ同教程ヲ修業中ノ者ニハ特技章ヲ付與セズ
- (ロ) 前號ニ依リ特技章ヲ付與セラレタル者ニ對シテハ新ニ服役ノ義務ヲ生ズルコトナシ
- (ハ) 勤務日數ノ計算期日ハ昭和十八年三月三十一日トス
- (ニ) 左ノ區分ニ依リ成績順位ヲ附ス
- (一) 高等科又ハ普通科信號術練習生(氣象班專修)卒業成績順位
- (二) 高等科又ハ普通科電信術練習生(暗號班專修)卒業成績順位
- (三) 氣象術講習修業成績順位
- (四) 暗號特技兵銓衡試驗成績順位又ハ下士官暗號員講習修業成績順位
- (五) (一)乃至(四)ニ依リ難キ者ハ現ニ有スル特技章ノ成績順位
- 四 氣象術講習修了者又ハ暗號特技兵ニシテ昭和十八年四月一日高等科又ハ普通科特技章ヲ付與セラレザル者ハ昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル各種特技兵臨時講習ヲ修了シタルモノト看做シ其ノ修得セル特技ニ從ヒ氣象術特技兵又ハ暗號術特技兵ト稱ス
- 五 在籍鎮守府司令長官ハ本令ニ依リ掌氣象兵、掌暗

<p>號兵、氣象術特技兵及暗號術特技兵ト爲リタル者ノ 中水兵科ノ下士官ニ非ザル者ハ海軍武官任用令第二 十九條第一項ノ規定ニ依リ現官階ト同等ノ水兵科ノ 下士官ニ之ヲ任用ス</p> <p>附則 昭和十六年官房機密第七四七八號ハ昭和十八年四月一 日ヨリ之ヲ廢止ス</p> <p>(參照) 昭和十六年官房機密第七四七八號ハ暗號員臨時講習並ニ同 講習員及暗號特技兵ノ人事取扱ニ關スル件ナリ(內令提要 卷一、六七〇ノ九頁)</p>	<p>○ 通 牒</p> <p>官房第七三〇五號 昭和十七年十二月七日</p> <p>海軍次官</p> <p>各鎮守府司令長官 大湊 殿 鎮海 警備府司令長官 大阪</p> <p>臨時經理部長打合會議開催ノ件申進 臨時經理部長打合會議左記ニ依リ開催相成候條開催時 刻前迄ニ海軍省ニ參集セシメラレ度</p>
<p>追テ所要旅費ハ請求ヲ俟テ配付セラレ候</p> <p>記</p> <p>一 開催期日 昭和十七年十二月十二日(土)午前九 時十五分開始、同日終了ノ豫定</p> <p>二 主宰者 海軍省經理局長</p> <p>三 參集者 橫須賀、吳、佐世保、舞鶴、大湊、鎮 海、大阪各海軍經理部長</p> <p>四 打合事項 豫算及契約等ニ關シ緊急處理ヲ要スル 事項</p> <p>軍務一機密第八九一號 昭和十七年十二月三日</p> <p>海軍省軍務局長</p> <p>第二南遣艦隊參謀長殿 溫泉療養所設置ノ件通知</p> <p>二四特根機密第一六號ノ一八二ニ依ル上申首題ノ件ハ 第百二海軍病院施設ノ一部トシテ施設シ第二十四特別 根據地隊之ガ管理ニ任ズルコトトシ可然計畫實施ノコ トニ取計ハレ度意向ナリ所要經費ハ請求ヲ俟テ支辨セ ラルベク候</p>	<p>海軍公報(部内限)第四千二百六十一號 昭和十七年十二月八日</p> <p>一二八九</p>

契庶機密第九九五號

昭和十七年十二月八日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

統制契約ニ關スル件通牒

首題ノ件左ノ通契約締結致候條該當品ハ本契約ニヨリ  
處理相成度

追テ契約書ハ所要ノ向キニ別途配付ス  
(別表添)

○ 辭令

(各通)

豫備役海軍大佐 遠山 彦次  
同 大澤 一介

右充員召集ヲ解除ス(註海軍省)

(各通)

海軍中將 井上 成美  
海軍中佐 小田切 政徳  
同 上田 俊次  
海軍少佐 近藤 賢一  
海軍生徒採用試驗常置委員ヲ命ス  
海軍中佐 吉武 二郎

(各通)

同 金子 吉郎  
海軍少佐 有吉 龜雄  
海軍技術中佐 濱村 尊義  
海軍技術少佐 中村 治光  
購買名簿調査委員會委員ヲ命ス  
海軍大佐 川村 宏矣  
海軍中佐 跡部 保  
海軍技師 小林 虎雄

(各通)

購買名簿調査委員會委員ヲ免ス(以上註同)

第五課勤務ヲ命ス 海軍主計中佐 保田 繁吉

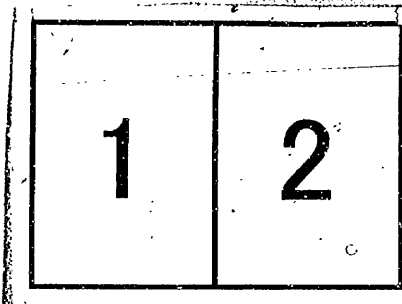
第四課勤務ヲ命ス(以上註海軍省經理局) 海軍主計少佐 岡田 鎮夫

第二課兼第一課勤務ヲ命ス(註海軍省軍需局) 海軍少佐 田代 正雄

○ 雜款

○郵便物發送先  
宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載セザル  
コト  
一 第十戰隊司令部 橫須賀局氣付(第十軍用郵便  
所經由)阿賀野司令部

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	統制契約一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	







<p>一 迅鯨司令部、迅鯨、伊百二十一潜、伊百二十二潜、呂三十四潜</p> <p>一 第十一號掃海艇</p> <p>一 第七號掃海艇</p> <p>一 第七〇三航空隊本隊</p> <p>第七〇三航空隊第一派遣隊</p> <p>第五昭南丸、第六昭南丸</p> <p>一 千山丸</p> <p>一 第一聯合通信隊司令部</p>	<p>横須賀局氣付(第十軍用郵便所經由)</p> <p>迅鯨司令部、迅鯨、伊百二十一潜、伊百二十二潜、呂三十四潜</p> <p>吳局氣付(第二十五軍用郵便所經由) 第十一號掃海艇</p> <p>佐世保局氣付(第四十一軍用郵便所經由) 第七號掃海艇</p> <p>北海道千歲郡千歲町 [ウ五四]</p> <p>横須賀局氣付 [ウ壹壹五、ウ五四、ウ七八]</p> <p>横須賀局氣付(ウ八六) 第五昭南丸、第六昭南丸</p> <p>十二月二十日迄到達見込ノモノ</p> <p>東舞鶴局氣付 千山丸</p> <p>右以降</p> <p>佐世保局氣付(第三十六軍用郵便所經由) 千山丸</p> <p>横須賀局氣付 [ウ壹〇五、ウ</p>
<p>一 神川丸司令部</p> <p>一 第四氣象隊</p> <p>一 第四氣象隊バラオ支隊</p> <p>一 護國丸</p> <p>一 妙高司令部、妙高、羽黒</p> <p>一 第三百三海軍建築部ダバオ出張所</p> <p>一 第十七設營隊</p> <p>一 第一百十一設營隊</p>	<p>壹壹五」氣付 [ウ壹七七]</p> <p>横須賀局氣付(第十二軍用郵便所經由) 神川丸司令部</p> <p>横須賀局氣付 [ウ五〇、ウ六參]</p> <p>横須賀局氣付</p> <p>横須賀局氣付 [ウ參〇、ウ六參、ウ壹七四]</p> <p>普通便及急送扱</p> <p>佐世保局氣付(イ壹九、イ壹參) 護國丸</p> <p>航空便</p> <p>臺北局氣付第四十一軍用郵便所經由 護國丸</p> <p>羽黒</p> <p>横須賀局氣付(第十軍用郵便所留置) 妙高司令部、妙高、羽黒</p> <p>吳局氣付</p> <p>[テ四參、テ參壹、テ參〇]</p> <p>横須賀局氣付 [ウ壹〇五、ウ壹九七]</p> <p>東京市芝區芝浦海軍建築部氣付 [ウ壹九壹]</p>

海軍公報(部内限) 第四千二百六十一號 昭和十七年十二月八日

一二九一

<p>一 伊一七六潜、伊一七二潜 横須賀局氣付(ウ五〇 ヲ三 七經由) 伊一七六潜、伊一七 二潜</p>	<p>一 第二五一航空隊 瑞鶴司令部、瑞鶴、 初風、時津風、天 津風</p>	<p>一 隼鷹司令部、隼鷹、 飛鷹、熊野、利根 司令部、利根、阿 賀野司令部、阿賀 野、嵐、野分、舞 風、夕雲、卷雲、 風雲、雪風、浦風、 磯風、谷風、濱風、 照月</p>	<p>一 鈴谷司令部、鈴谷 國川丸</p>	<p>一 第八聯合特陸司令部 横須賀局氣付 〔ウ壹〇五 ヲ壹九九〕</p>	<p>一 吳鎮第六特陸 横須賀局氣付 〔ウ壹〇五 ヲ壹九四〕 一 横鎮第七特陸 横須賀局氣付 〔ウ壹〇五 ヲ貳〇〇〕</p>	<p>○公用書類再發送 横須賀郵便局ニ於テ取扱ヒタル郵便物ニシテ左記ノモ ノハ事故ノ爲全部亡失シタルニ付再發送相成度</p>	<p>取 扱 期 間 宛 先 自昭和十七年十一月二十四日 〔ウ八三ウ八四、ウ八八ウ九八 至同 十一月二十八日 〔ウ八四ウ一〇八、ウ九〇ウ四〇 至同 十一月二十八日 〔ウ八六ウ九七、ウ二五ウ二二〇 十一月二十九日 〔ウ一〇三ウ一一一 十一月二十八日 〔横須賀海軍港務部海軍軍用郵便監督官〕</p>
--	--	--	---------------------------	---	--	--	---

# 海軍公報

(部内限) 第四千二百六十二號

昭和十七年十二月九日(水)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房機密第一四八五一號ノ二

昭和十七年十二月一日

海軍大臣

各鎮守府、警備府司令長官殿

一號、二號除毒劑處分ノ件訓令

所管軍需部ヲシテ現供給中ノ首題兵器ヲ速ニ還納受セシメ在庫品ト共ニ廢品處分ノ上取纏メ造兵材料トシテ海軍技術研究所宛保管轉換セシムベシ

官房第七三一九號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月八日

海軍大臣

「今次事變中」ヲ「大東亞戰爭中」ニ改ム  
表中第十三海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任」ヲ「專務」ニ改ム

十二人判任「專任」二十七人判任  
十七人雇員「專務」二十三人雇員「改ム」

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年十月六日本欄)

官房第七三三〇號

大正九年官房第一二六一號別表ヲ別表ノ通改ム

昭和十七年十二月八日

海軍大臣

(別表)

### 舍營料定額表

一等	將官	一圓五十錢
二等	佐尉官、特務士官、候補生、見習尉官	一圓二十錢
三等	准士官	八十錢
四等	生徒、下士官、兵、豫備員候補者	五十錢

備考

高等文官二等以上ハ一等ノ額、同三等以下ハ二等ノ額、判任官ハ三等ノ額、雇員傭人ハ四等ノ額トス  
舍營料ハ宿泊ヲ要スル場合ニ限り其ノ泊數ニ應ジ之ヲ支給ス

(參照) 會計法規類集一卷一三四頁

官房第七三二一號

當分ノ間人夫等ノ使役ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年十二月八日

海軍大臣

- 一 本令ニ於テ常傭人夫トハ連續二年以上使役ヲ必要トスル官役人夫ニシテ廳長ノ指定セルモノヲ謂ヒ普通人夫トハ常傭人夫以外ノ官役人夫ヲ謂フ
- 二 内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル各廳ニ於テハ常傭人夫ヲ使役セザルモノトス  
現ニ使役中ノ常傭人夫ハ本年十二月十五日限り之ヲ雇員、傭人若ハ工員ニ採用シ又ハ普通人夫ト爲スモノトス
- 三 前號以外ノ地域ニ於ケル各廳ニ於テハ常傭人夫ヲ使役スルコトヲ得

各廳長前項ニ依リ常傭人夫ヲ使役スルトキハ其ノ氏名、勤続年月、職種及給額(新、舊共)ヲ海軍省經理局長ニ通報スルモノトス  
四 海軍ニ對シ成規ノ身分關係ナキ者ヲ前二號ニ依ル人夫以外トシテ當時使役シ又ハ廳内限り便宜ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ズ

官房第七三二二號

昭和十五年官房第三八二〇號中左ノ通改正ス

昭和十七年十二月八日

海軍大臣

- 第一號(四)ヲ(五)トシ以下順次繰下ゲ同(三)ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
  - (四) 艦船部隊ニ於ケル貯蓄(昭和十七年官房第七一三七號ニ依ルモノ)
  - 第二號(三)ヲ(四)トシ以下順次繰下ゲ同(二)ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
  - (三) 國民貯蓄組合
- 附則  
本令ハ昭和十七年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス  
(參照) 海軍會計法規類集一卷五九二頁

○通牒

官房機密第一二八〇號ノ二二

昭和十七年十二月八日

海軍省 副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メヲレ候

記

附錄部隊區別符表(其ノ一)中左ノ如ク加フ

帆 篷 通 信 隊	ウ 貳 〇 貳
第 二 〇 一 航 空 隊	ウ 貳 〇 參
第 五 五 二 航 空 隊	ウ 貳 〇 四

記

一 加算ノ程度

一月ニ付三月ヲ加算セラルベキ場合

一月ニ付二月ヲ加算セラルベキ場合

戰務加算(甲)

戰務加算(乙)

海軍公報(部内限)第四千二百六十二號

昭和十七年十二月九日

一二九五

第九五八航空隊	ウ 貳 〇 五
千島方面特別根據地隊	ウ 貳 〇 六
佐 鎮 第 六 特 陸	ウ 貳 〇 七

海人第二號ノ四八八

昭和十七年十二月三日

海軍省 人事局長

關係各廳長殿

恩給請求書及敍勳具申書ニ添附スベキ履歷書記載方ノ件通牒

首題ノ件ニ關シ昭和十七年四月一日以後恩給法第三十二條ニ規定スル戰務加算ヲ附セラルル場合ニ於テハ其ノ程度ニ依リ左記ノ通記載スルコトト了知相成度追テ敍勳具申ニ關シテハ昭和十八年一月資格發生ノ分ヨリ實施致度

一月ニ付一月半ヲ加算セラルベキ場合 戰務加算(丙)  
 一月ニ付一月ヲ加算セラルベキ場合 戰務加算(丁)

二 恩給請求書ニ添附スベキ履歷書ノ記載例

(イ) 昭和十六年十二月二十日 横須賀發 戰地戰務 艦名  
 同 十七年 四月一日 ヨリ戰務甲 同

七月十五日 吳へ歸着

七月十六日 ヨリ八月十日迄戰務丁 同

(ロ) 昭和十七年 五月一日 海南警備府附ヲ命ス

同 日 佐世保發 戰務乙

十月十五日 佐世保へ歸着 但シ轉勤ノ爲

三 敍勳具申ニ添附スベキ履歷書ノ記載例

年	月	日	任	免	賞	罰	資格	在職年數	通算
昭和十七年	四月	三十一日	軍艦	何々ニテ	戰務	甲		四月	一年
	八月	三十一日	何々海軍航空隊	ニテ	戰務	丁		五月	五月

(参照) 恩給法第三十二條戰争又ハ戰争ニ準スヘキ事變ニ際シ公務員其ノ職務ヲ以テ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月以内ヲ加算ス  
 戰争又ハ戰争ニ準スヘキ事變、加算ノ程度、加算ノ認めラルヘキ期間及地域並戰務ノ範圍ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

教育機密第二七四號  
 昭和十七年十二月八日  
 海軍省人事局長  
 海軍省教育局長



海軍大學校長  
海軍兵學校校長  
海軍機關學校校長  
海軍經理學校校長  
各鎮守府參謀長  
殿

文官教官ノ内地研究員ニ關スル件申進  
首題ノ件左記ノ通定メラレ候

記

海軍諸學校、海兵團、練習航空隊、海軍技手養成所等ニ勤務ノ海軍文官教授及助教ヲシテ左ノ要領ニ依リ内地留學ヲ行ハシム

一 研究員ノ員數

毎年約五名トシ海軍大臣之ヲ命ス

二 研究期間

各研究員概ネ一年トス

三 研究場所

部内及部外ノ學校又ハ研究機關

四 研究項目

學生、生徒、練習生等ノ教育ニ關聯アル學術教授法等ニ就キ研究セシム

五 身上取扱

現所轄ヨリ派遣又ハ最寄ノ海軍教育機關若ハ研究實

驗機關ニ轉入シ研究ニ従事セシムルモノトス

六 海軍諸學校、海兵團、練習航空隊、海軍技手養成所等ニ於ケル文官教官及助教中内地研究員タラシムルヲ適當ト認ムルモノアルトキハ校長、團長、司令、所長等ハ毎年一月末日迄ニ別紙様式ニ依リ所要事項ヲ記入ノ上教育局長及人事局長ニ各一通ヲ送付スルモノトス

各所轄ニ於ケル候補者ノ選抜ハ左ノ標準ニ依ル

(イ) 海軍教授又ハ助教ニ任官後三年以上ヲ經過セル者

(ロ) 文官教授及助教十名以上ノ所轄ハ二名其ノ他ハ一名トス

七 研究報告

各研究員ハ研究期間終了後二ヶ月以内ニ自己ノ研究セル事項ニ就キ順序ヲ經テ海軍大臣ニ報告スルモノトス

八 研究ニ要スル學資ハ別途配付ス

(別紙)

選抜 順序	氏 名	研 究 日 間	研 究 所	研 究 期 間	身 上 取 扱 ニ 關 ス ル 希 望

(註) 備考トシテ研究員派遣ノ爲ニ教務ニ差支ノ有無ヲ附記スルヲ要ス

○ 辭令

通信書記補 清水二三夫  
 東京海軍通信隊附ヲ免ス(付前海軍省)  
 豫備役海軍技術中尉 松本 保  
 右充員召集ヲ解除ス(註同)  
 通信書記 山里 丈夫  
 第三十六海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
 同 小出 暉  
 東京海軍通信隊附ヲ命ス(以上註同)  
 鐵道官 池田喜一郎  
 横須賀鎮守府附ヲ命ス  
 同 石川 義藏  
 横須賀鎮守府附ヲ免ス(以上註同)  
 海軍中佐 栗野原 仁志  
 第三課勤務ヲ命ス(註同海軍省兵備局)

○ 雜款

○郵便物發送先  
 自今左ニ依リ發送相成度  
 宛先ハ下段ノ通記載ノコト但シ( )内ハ記載ヲ要セズ

一 幌筵通信隊  
 横須賀局氣付「ウ貳〇貳」ニ改ム

一 第三十航空基地  
 馬公警備府氣付第三十航空基地

一 第七〇五航空隊  
 横須賀局氣付「ウ壹〇五ウ壹五參」

一 嚴島  
 吳局氣付(第二十八軍用郵便所經由)嚴島

一 カリテヤ號  
 吳局氣付(第二十六軍用郵便所經由)「セ六貳」

一 千島方面特別根據地隊  
 大湊警備府氣付「ウ貳〇六」十二月十五日迄到達見込ノモ  
 ノ本更津海軍航空基地隊氣付「ウ壹參參」

一 第七五五航空隊  
 右以降横須賀局氣付「ウ九〇 ウ壹參參」

一 第二〇四航空隊  
 横須賀局氣付

<p>一 佐鎮第六特陸 横須賀局氣付 「ウ壹〇五 ウ壹五九」</p> <p>一 第二〇一航空隊 横須賀局氣付 「ウ壹〇五 ウ貳〇七」</p> <p>同 第一派遣隊 横須賀局氣付 「ウ壹壹五 ウ貳〇參」</p> <p>同 第二派遣隊 横須賀局氣付 「ウ壹〇參 ウ貳〇參」</p> <p>一 第十九號驅潛艇 佐世保局氣付（第四十軍用郵便所經由）第十九號驅潛艇 「ウ八八ウ貳〇參 ウ七九」</p> <p>一 第十五號掃海艇 横須賀局氣付（第十二軍用郵便所經由）第十五號掃海艇 「ウ壹〇五 ウ貳〇參」</p> <p>一 第九五六航空隊 横須賀局氣付 「ウ壹〇五 ウ貳〇參」</p> <p>一 鈴鹿海軍工廠 加佐登局氣付鈴鹿市平田町 「ウ壹〇五 ウ貳〇參」</p> <p>一 築城航空隊 福岡縣築上郡築城村 「ウ壹〇五 ウ貳〇參」</p> <p>同 富高派遣隊 宮崎縣東臼杵郡富高局氣付 「ウ壹〇五 ウ貳〇參」</p> <p>一 第七〇七航空隊 築城航空隊富高派遣隊 「ウ壹〇五 ウ貳〇參」</p> <p>司令、主計長宛 木更津航空基地氣付 「ウ壹五八」殘務整理委員 大井丸</p>	<p>隊機關長、軍醫長宛 （第三十一掃海隊） 多摩丸</p> <p>○郵便物發送停止 和歌山縣西牟婁郡串本郵便局氣付海軍飯田部隊ハ原隊復歸ニ付自今郵便物ハ發送停止相成度 （舞鶴海軍航空隊）</p> <p>○左記特設艦船ニ要スル經費掌理者ハ各頭書ノ通依託（指定）致候 舞鶴海軍經理部 日 春 丸 第五日の丸 第十八眞盛丸 新 國 丸 千 山 丸 天 城 丸 巴 蘭 丸 千歲海軍航空隊主計長 （第十一航空艦隊司令部）</p> <p>○事務開始 海軍西田部隊ハ十一月二十八日横須賀海軍砲術學校内ニ於テ事務ヲ開始セリ 驅逐艦清波艦裝具事務所ヲ十二月三日神奈川縣三浦郡浦賀町谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀工場内ニ設置</p>
--	--

海軍公報（部内限）第四千二百六十二號

昭和十七年十二月九日

一二九九

シ事務ヲ開始セリ

○豫約出版募集

第四海軍燃料廠編

、海軍炭鑛五十年史

菊版約三〇〇頁(銅版約三〇頁入)

右豫約出版實費頒布可致ニ付希望ノ向ハ左記ニ依リ申  
込相成度

記

一 頒布範圍 部内高等官

二 賞 費 約金四圓(送本ノ際振替用紙ヲ添付ス)

三 配本期日 昭和十八年三月頃

四 申込期限 昭和十七年十二月末日限

五 申込先 第四海軍燃料廠會計課  
(第四海軍燃料廠)

○取消

本月三日附辭令欄臺灣支那方面施設制度調査委員會委  
員竝ニ南西方面施設制度調査委員會委員ハ取消

○訂正

本月三日附辭令欄「陸海軍軍需工業動員協定委員會委  
員」ヲ「陸海軍軍需工業動員協定委員會幹事」ニ、「海  
軍少佐林 清三」ヲ「海軍中佐坂倉 武」ニ訂正ス

○正誤

本月一日海軍公報(部内限) 掲載ノ百一設營隊事務開  
始ハ百十一設營隊ノ誤